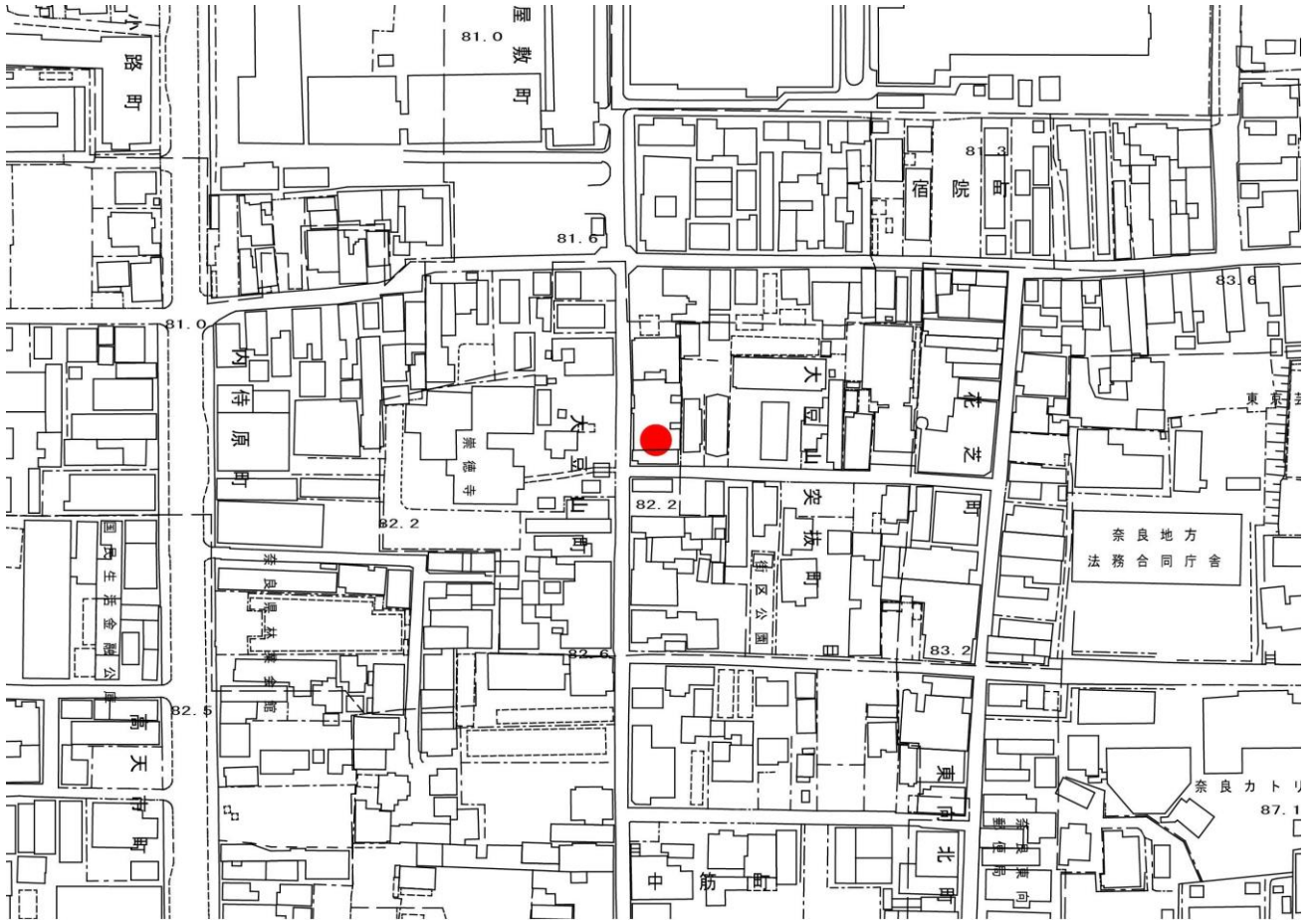


歴史的風致形成建造物 指定台帳

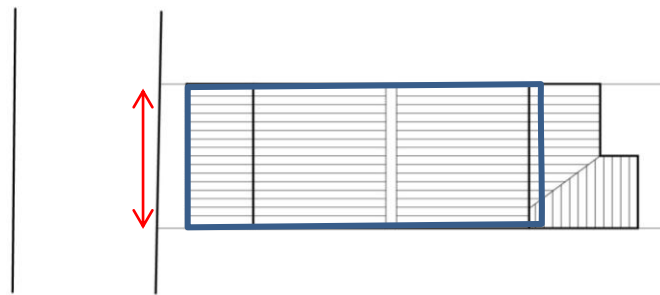
指定番号	28	名称	大豆山町家	
指定年月日	R3.3.29	所在地 (指定地)	奈良市大豆山町 15 番地	
指定建造物	主屋	建築年代 ・概要	昭和前期頃	木造二階建、切妻造、平入、棧瓦葺
位置 ・ 歴史	<p>大豆山町は、近鉄奈良駅の北に位置し、町の西側に、奈良県指定文化財の本堂、客殿、庫裡を有する崇徳寺が所在し、土塀の趣ある景観がみられる。町名の由来は詳らかではないが、崇徳寺境内の眉目塚にちなむといわれる。</p> <p>当地は、大豆山町の中央を通る南北道路に東面する。建物の建築年代は不明だが、昭和前期頃に建てられたものとみられ、階段下の壁に昭和 22 年の新聞が使用されていることなどから、その頃までに建てられたものとみられる。現所有者によると、平成 22 年頃までは貸家で、その後空家だった当建物を平成 28 年に購入したという。</p>			
建物特徴 ・ 改修履歴	<p>当建物は、間口 2 間の 2 階建てで、道路から半間ほど後退して建つ。正面外観は、1 階は南側 1 間を戸口とし、北側 1 間は腰板張りの木製格子窓が張り出して取り付いている。令和 2 年度の修理の際に、今後の活用のため羽目殺しの格子を跳ね上げできるように改造している。また、外壁は浅葱色の土壁であったことが判明したが、維持管理を考慮し浅黄色の漆喰仕上げとした。2 階は、中央に窓を入れ、南側に戸袋が付く。窓は保管されていた小割の木製建具に復した。内部は前土間式で、南側 1 間を玄関土間、北側 1 間は土間に板の簀子を敷いた台所とし、流しを置く。玄関土間の奥に 2 畳の玄関の間を設け、台所の奥は板の間とし、水屋箆箆を置く。その奥は、4 畳半の中の間、8 畳の座敷を 1 列に並べ、背面南側に便所棟が接続する。当初の座敷は 6 畳で、東側半間は縁であったことが、旧縁境に鴨居や垂れ壁が残ることなどからわかる。垂れ壁には下地窓風欄間窓が付いており、釣床や下地窓風平書院も当初のまま残る。</p> <p>2 階は全て新建材で覆われており、旧状を確認することができない。平成 28 年時点ですでに現在の状態であったというが、ごく近年に改修されたものとみられる。</p> <p>改修履歴) 昭和後期：外壁塗替・内部改修（1 階縁側）、平成後期：内部改修（2 階） 令和 2 年度：腰板張替、外壁塗替、戸袋鉄板張撤去張替、アルミサッシを木製建具に復旧</p>			
活用	貸店舗として活用予定			
価値	通り土間をもつ近世以来の伝統的な平面形式とは異なる前土間式の町家で、昭和前期頃の貸家の様子をよく示し、奈良町の町家の暮らしにみる歴史的風致の維持向上に寄与する。			



歴史的風致形成建造物 指定台帳



付近見取図



- 該当建造物
- ↕ 公開範囲

配置図